平成30年度 指定管理者年度評価シート

1 公の施設の基本情報

施設名称	千葉市科学館
条例上の設置目的	千葉市科学館設置管理条例(平成18年千葉市条例第44号) 第1条 本市は、科学に関する知識の普及及び啓発並びに青少年の創造力のかん養を図 り、市民文化の発展に寄与するため、千葉市科学館を設置する。
ビジョン (施設の目的・目指すべき方向性)	千葉市科学館は、千葉市科学都市戦略の基本理念「こどもから大人まで、すべての市民が日常生活の中で科学・技術を身近に感じることができる、科学都市を創造する」に基づき、市民が科学・技術に触れ合い、ライフスタイルに科学が浸透する機会を提供する生涯学習施設としての役割を担っている。また、千葉市科学館のコンセプトは、「参加体験型の科学館」と、人から人へのコミュニケーションを大切にした「人が主役となる科学館」である。
ミッション (施設の社会的使命や役割)	・幅広い年齢層の市民を対象に、科学に関する知識の普及及び啓発に寄与すること ・学校教育と連携して、青少年の創造力のかん養を図り、科学や技術に対する興味関心 を高めること
制度導入により見込まれる 効果	市民サービスの向上を図るとともに、生涯学習施設として学校教育支援を充実させることや、さらに多くの市民に本施設を利用してもらうという効果を見込んでいる。
成果指標※	①入館者数 ②利用者アンケートにおける利用者満足度 ③市内小学校団体利用の割合
数値目標※	①400,000人 ②97% ③100%
所管課	千葉市教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課

※ 成果指標及び数値目標は、選定時に設定したものである。

2 指定管理者の基本情報

指定管理者名	コングレ・東急コミュニティー共同事業体
構成団体 (共同事業体の場合)	株式会社コングレ株式会社東急コミュニティー
主たる事業所の所在地 (代表団体)	大阪市中央区淡路町三丁目6番13号
指定期間	平成29年4月1日~平成34年3月31日(5年)
選定方法	公募
非公募理由	
管理運営費の財源	指定管理料及び利用料金収入

3 管理運営の成果・実績

(1) 成果指標に係る数値目標の達成状況

成果指標	数值目標※	H30年度実績	達成率※	
入館者数	455,500人(400,000人)	484,671人	106. 4%	
利用者アンケートにおける利用者満足度	98% (97%)	96.8%	98.8%	
市内小学校団体利用の割合	100%	100%	100%	

※ 数値目標は選定時に設定した数値であり、市設定の数値を上回る目標を指定管理者が設定している場合、市設定の数値は括弧書きで表している。

(2) その他利用状況を示す指標

指 標	H30年度実績
プラネタリウム稼働率(%)	30.6%

4 収支状況

(1) 必須業務収支状況

ア収入

(単位:千円)

						(単位・1円)
弗 F	費目		【参考】	計画実績差異・要因分析		
	1	H30年度	H29年度	差	:異	主な要因
	実績	404, 215	376, 233	実績-計画	0	
<mark>指定管理料</mark>	計画	404, 215	376, 233	計画-提案	\triangle 7, 485	消費税率10%→8%に戻したため
	提案	411, 700	383, 200			
	実績	70, 935	59, 594	実績ー計画	242	有料入館者数の増
利用料金収入	計画	70, 693	65, 017	計画-提案	\triangle 1, 310	
	提案	72,003	65, 017			
	実績	28, 171	22, 751	実績ー計画	\triangle 6, 389	ミュージアムショップ売上の減
その他収入	計画	34, 560	29, 246	計画-提案	\triangle 640	消費税率10%→8%に戻したため
	提案	35, 200	29, 700			
	実績	503, 321	458, 578	実績-計画	\triangle 6, 147	
合計	計画	509, 468	470, 496	計画-提案	\triangle 9, 435	
	提案	518, 903	477, 917			

イ 支出

(単位:千円)

費目		H30年度	【参考】	計画実績差異・要因分析		
		H29年度	差異	主な要因		
	実績	250, 916	224, 652	実績−計画 △ 7,627 採用職員	員数の減	
人件費	計画	258,543	244, 079	計画一提案 0		
	提案	258, 543	248, 599			
古沙弗 佐田	実績	151, 535	143, 521	実績-計画 7,230 保守点板	食、修繕費の増	
事務費・管理 費	計画	144, 305	139, 231	計画-提案 △ 4,255 光熱水費	貴の減	
~	提案	148, 560	140, 518			
	実績	66, 901	69, 895	実績-計画 536 委託費 @	D増	
委託費	計画	66, 365	68, 727	計画-提案 △ 3,635 消費税率	№10%→8%に戻したため	
	提案	70,000	70,000			
	実績	30, 896	17, 357	実績−計画 △ 9,359 什器、係	莆品購入費の減	
その他事業費	計画	40,255	18, 459	計画-提案 △ 1,545 消費税率	№10%→8%に戻したため	
	提案	41,800	18,800			
	実績			実績一計画 0		
本社費・共通費	計画			計画一提案 0		
	提案					
	実績	500, 248	455, 425	実績−計画 △ 9,220		
合計	計画	509, 468	470, 496	計画−提案 △ 9,435		
	提案	518, 903	477, 917			

^{※「}計画」とは、事業年度ごとの事業計画書で定めた計画額を示す。

本社費・共通費の配賦基準・算定根拠

[「]提案」とは、選定時の提案書、事業計画書で指定管理者が提案した見積額を示す。

(2) 自主事業収支状況

ア収入

(単位:千円)

費目		H30年度	【参考】 H29年度
自主事業収入	実績	2,812	2, 338
その他収入	実績	0	0
合計	実績	2,812	2, 338

イ 支出

(単位:千円)

費目		H30年度	【参考】 H29年度
人件費	実績		
事務費	実績		
管理費	実績		
委託費	実績		
使用料	実績		
事業費	実績		
利用料金	実績		
その他事業費	実績	1,929	1,832
本社費・共通費	実績		
合計	実績	1, 929	1,832

本社費・共通費の配賦基準・算定根拠

(3) 収支状況

(単位:千円)

		H30年度	【参考】H29年度
	収入合計	503, 321	458, 578
必須業務	支出合計	500, 248	455, 425
	収 支	3, 073	3, 153
	収入合計	2, 812	2, 338
自主事業	支出合計	1, 929	1,832
	収 支	883	506
総収入		506, 133	460, 916
総支出		502, 177	457, 257
収支		3, 956	3, 659
利益の還元額		0	0
利益還元の内容			

5 管理運営状況の評価

(1) 管理運営による成果・実績(成果指標の目標達成状況)

() I all a construction of the construction o				
評価項目	市の評価	特記事項		
入館者数	Α	市設定の目標値の121.2%を達成した。		
利用者アンケートによる利用者満足度	С	市設定の目標値の99.8%であった。		
市内小学校団体利用の割合	С	市設定の目標値の100%を達成した(111校すべてが利用)		

- 【評価の内容】※数値はいずれも原則であり、特殊な事情がある場合は当該事情も含め、総合的に判断する。 A:成果指標が市設定の数値目標の120%以上(ただし、指定管理者設定の目標に達していない場合はBとする。) B:成果指標が市設定の数値目標の105%以上120%未満(ただし、指定管理者設定の目標に達していない場合はCとする。)
 - C:成果指標が市設定の数値目標の85%以上105%未満
- D:成果指標が市設定の数値目標の60%以85%未満
- E:成果指標が市設定の数値目標の60%未満

(2) 市の施設管理経費縮減への寄与

評価項目	市の評価	特記事項
市の指定管理料支出の削減	С	選定時の提案額と同額(消費税分の差異はあり。)

【評価の内容】※数値はいずれも原則であり、特殊な事情がある場合は当該事情も含め、総合的に判断する。

A:選定時の提案額から10%以上の削減

B:選定時の提案額から5%以上10%未満の削減

C:選定時の提案額と同額又は5%未満の削減

(D·E:選定時の提案額を超える支出を行うことはないため、該当なし)

-:対象外(市の指定管理料支出がない。)

(3) 管理運営の履行状況

	評価項目	自己評価	市の評価	特記事項
1	市民の平等利用の確保・施設の適正管理			
	市民の平等利用の確保	D	\mathbf{C}	
	関係法令等の遵守	В		
	リスク管理・緊急時対応			
2	施設管理能力	\setminus	\setminus	
	(1) 人的組織体制の充実			・博物館学芸員有資格者を24人配置してい
	管理運営の執行体制	C	В	る。 ・休館日の通常研修に加え、館外施設へも
	必要な専門職員の配置		D	研修の場を求め積極的に専門知識の共有に
	従業員の能力向上			努めた(延べ28回・142人)。
	(2) 施設の維持管理業務			・展示機器が老朽化する中、補修をきめ細
	施設の保守管理	В	С	かく行い心地よい展示環境を保った。 ・10階の展示照明をLED灯とし、省電力化
	設備・備品の管理・清掃・警備等			を図った。
3	施設の効用の発揮	\setminus		
	<mark>(1)幅広い施設利用の確保</mark>			
	開館時間・休館日		・各種館外イベントへ積極的に参加し館の 広報につとめ、初回利用者の来館を促進し	
	利用料金設定・減免	Б		た。
	利用促進の方策			
	(2)利用者サービスの充実		・地域や有識者の意見を聴取する場(アドバイザリー・ボード)を設け、主体的に利	
	利用者への支援	С	С	用者のニーズを求める機会を設けた。
	利用者意見聴取・自己モニタリング			
	(3) 施設における事業の実施			・企画展での大幅な集客増により過去最高
	施設の事業の効果的な実施	Α	В	の利用者数を記録した。 ・幅広い年齢層に対し教育普及事業を積極
	自主事業の効果的な実施			的に展開した。
4	その他			
	市内業者の育成			
	市内雇用への配慮	В	С	・11月より障がい者1名を雇用している。 ・展示機器メンテナンス業者として、新た
	障害者雇用の確保	Б		・展示機器メンテテンへ乗者として、新たに市内業者1社と契約した。
	施設職員の雇用の安定化への配慮			

【評価の内容】

- A:管理運営の基準・事業計画書等に定める水準を上回る、特に優れた管理運営が行われていた。 B:管理運営の基準・事業計画書等に定める水準を上回るなど、優れた管理運営が行われていた。 C:概ね管理運営の基準・事業計画書等に定める水準どおりに管理運営が行われていた。

- D:一部、管理運営の基準・事業計画書等に定める水準を満たしておらず、改善の余地がある管理運営が行われていた。 E:管理運営の基準・事業計画書等に定める水準を満たしておらず、速やかな改善が求められる管理運営が行われていた。

(4) 教育委員会指定管理者選定評価委員会意見を踏まえた対応

意見の内容	意見対象年度	対応・改善の内容
利用者数、プラネタリウム稼働率につい て、さらなる増加を目指すこと	平成27年度	企画展が好評で、利用者数は前年度比111.4%を達成し、2 年連続の記録更新となった。プラネタリウム稼働率は前年 度比91.6%であったものの、利用者数・回数ともに前年度 を上回った。 ・科学館利用者数:29年度 435,113人→30年度 484,671人 ・プラネ稼働率:29年度 33.4%→30年度 30.6% ・プラネ利用者数:29年度 146,064人→30年度 156,738人 ・プラネ投影回数:29年度 2,188回→30年度 2,560回
人的組織体制については、管理運営の基準 に定められた人員を確実に確保すること	平成29年度	事業計画書にある職員数56人を達成するよう指導を続けたが、毎月末日になされた報告人数を平均すると52.8人であった。一年間の新規採用者は11人で、退職者は8人だった。
平日の利用者が少ないため、高齢者を対象 としたプログラムを増やすなど一年を通し て稼働率を上げられるような企画を検討す ること	平成29年度	平日開催の講座として「大人の工作教室」を前年度2回実施から7回実施に増設した。うち1回は「シニア向けクラフト講座」と高齢者向けにアレンジした内容で実施した。参加人数の平均は11.0人だった。

6 利用者ニーズ・満足度等の把握

(1) 指定管理者が行ったアンケート調査

, , , , , , ,	調査方法 館内にアン	<u> グート用紙と</u>	回収箱を2ヶ	所に設置	。アンク	rートは後日郵	送できるよ	うにハガキ	大に設定。
実施内容	回答者数 496票	3票							
		シート項目:年代・会員、非会員・住まい 目:来館回数・同伴者・科学館全体印象・施設印象・再来館の意思・自由記述							
	ア 回答者の属性		13~19歳	20代	30代	- ' -	50代	60歳以上	無回答
	•年齢	31.4%	7.7%	8.2%	11.1%	12.1%	3.3%	1.5%	24.7%
	•科学館会員比率	会員	非会員						
		12.8%	87.2%						
	イ 来館回数	はじめて	2~3回	4回以上					
		31.6%	22.8%	45.6%					
結果	ウ 科学館全体印象	とても良い	まあ良い	ふ	つう	あまり良くない	* 悪い	Λ	
		74.8%	18.2%	5.9%		0.4%	0.6	%	
	工 施設印象	とても良い	まあ良い	いふつう		あまり良くない		張しい	
		68.2%	23.4%	(6.7%	1.3% 0.		.4%	
	オ 再来館の意思	ぜひ来てみたい機会あれば来てみた			みたい	どちらとも言え	ない。来	たくない	
		78.6%		18.2%		2.3%		0.8%	

(2) 市・指定管理者に寄せられた主な意見・苦情と対応

主な意見・苦情	指定管理者の対応
	利用者の安全を考慮し、観覧動線を完全に避けることのできる 場所を選び、7~8階に休憩用の椅子を増設した(7月)。
	展示物の不具合が発生した際には、専門のスタッフが迅速な修繕を行った。

7 総括

(1) 指定管理者による自己評価

総括評価	В	所見	(1)年間利用者数484,671人(前年度比111.4%)を記録し、開館以来最高だった昨年の記録を大幅に超え、2年連続で開館以来最高の利用者数を達成した。特に、ゴールデンウィーク企画展「わくわく恐竜ランド」、夏の特別展「ミラーマジック」が入場制限をするほどの人気で入館者数増に貢献した。 (2)プラネタリウムでは「ドラえもん」「ポケットモンスター」で満席の回が相次いだ。 (3)土日講座、サマースクール、おもしろ実験教室等、計画回数を大幅に増加させた教育事業だったが、確実に計画回数を達成することができた。 (4)「千葉市科学フェスタ2018」は、例年以上の出展者数に加えて、多くのボランティアが活躍するなど、市民イベントとしての認知度を高めることができた。
------	---	----	---

(2) 市による評価

総括評価	C	所見	概ね市が指定管理者に求める水準等に則した管理運営が行われていた。 (1)入館者数が2年連続の記録更新となった。30年度利用者数484,671人は市設定目標値の121%、前年度比111%にあたる。 (2)5月の「恐竜展」、夏休み期間中の「鏡の世界は不思議がいっぱい展」の来場者だけで昨年の全企画展の来場者数に並ぶヒットとなった。年6テーマの全体来場者は96,654人、前年度比134.8%を達成し、過去最高を記録した。 (3)本年度より学校教育支援事業として、小学校への出前授業を年60回実施し、学校の要望にそった理科授業への支援を開始した(延べ38校、60回、1,794人)。 (4)恐竜やアニメ番組などのコンテンツをプラネタリウム番組に積極的に導入することで、入場者数の増加(前年度比107%)に寄与した。 (5)土日講座、大人が楽しむ科学講座等の教育普及事業は、提案通りに実施され、幅広い年齢層のリピーターづくりに寄与した。特に大人が楽しむ科学講座は予定回数比125%、想定参加人数比272%を達成した。 (6)配置職員数が、年度事業計画書に示された「職員数56人」を満たしていなかった。 (7)メンバー会会員設定目標10,000人に対し、年度末4,645人にとどまっている。
------	---	----	--

【評価の内容】

- A:市が指定管理者に求める水準等を大きく上回る、特に優れた管理運営が行われていた。 B:市が指定管理者に求める水準等を上回る、優れた管理運営が行われていた。 C:概ね市が指定管理者に求める水準等に則した、良好な管理運営が行われていた。 D:管理運営の一部において市が指定管理者に求める水準等に達しておらず、改善の余地のある管理運営が行われていた。 E:管理運営全般において市が指定管理者に求める水準等に達しておらず、速やかな改善が求められる管理運営が行われていた。

(3) 教育委員会指定管理者選定評価委員会の意見